

キャラクター名
針金有栖 (はりがね ありす)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	暗殺者	カヴァー	学生
	パロール					
オプション			年齢	15歳	性別	女
覚醒	素体	衝動	殺戮		初期侵食率	34 %
出自	名家の生まれ	経験	危険な仕事		邂逅	指定

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	1	0	1			2	行動値	13
感覚	3	1	1			5	(非装備時)	13
精神	2	0	1			3	戦闘移動	18
社会	2	0	0			2	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	2		RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	2		調達	2	
運転:	2		芸術:			知識:	2		情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ヘッジホッグ	射撃	8r+2	14	30		ダブルクリエイト+インフィニティウェポン+魔弾の射手+カスタマイズ+コンセントレイト
ディオドン	射撃	8r+2	18	30		80%~/↑+スプリットアタック

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
携帯	
乗用車	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
錬金術師	P	N		
針金壘	P 庇護	N 隔意		
喜屋武円治	P 誠意	N 不信感		
指定ロイス	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト	2	2	メジャー					
効果: C値-Lv								
ダブルクリエイト	1	3	マイナー			自動		
効果: 組み合わせて作る武器を2つに								
インフィニティウェポン	3	3	マイナー			自動		
効果: 白兵武器を作成/攻撃力LV+7/ガード3								
魔弾の射手	3	4	メジャー	視界	単体	射撃	LV回	
効果: 白兵武器2つで射撃/命中と攻撃を合計/メイン後破壊								
カスタマイズ	3	2	メジャー			射撃		
効果: 判定ダイス+Lv								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100%	
効果: 判定を失敗させる/シナリオ1								
スプリットアタック	3	4	メジャー				シンドローム 80%	
効果: 攻撃の対象をLv+1体に/シーン1								
ポケットディメンジョン	1		メジャー			自動		
効果: 隠れ家設置や緊急避難に使う								
ディメンジョンゲート	1	3	メジャー			自動		
効果: 逃走や奇襲に使う								
偏差把握	1		メジャー		シーン	自動		
効果: 警戒や斥候に使う								
万能器具	1		メジャー			自動		
効果: 一般人なら十分殺せる								
効果:								
効果:								

とある一族の末娘で、普段は学生をしている。
人懐っこく、すこしばかり怖がりな年頃の女の子。大好物はいちご。

しかしその実態はレジスタンス所属の暗殺者。一度仕事に入ると幼くドジな少女の姿は鳴りを潜め、影から影を渡り、文房具から生み出した鉄針で仕留められた相手は眠るように息の根を止められるという。もともと、普段の彼女が見せるそそっかしくて朗らかな性格が偽りの仮面という訳ではない。

彼女の家はそこが封鎖都市と呼ばれるずっと以前から権力を有していた。しかし軍部の勢力拡大により衰退を始め、現在では没落貴族の誹りを受け続けている。かろうじて面目が保っているのは一重に絞り糸に等しい過去の栄華と、そこから何とかかきあつめたコネクションによるもの。有栖は今の時代に唇を噛む父の命により、また末の娘であることを理由にとある暗部組織に預けられオーヴァード化を果たした。まだ幼少だった彼女は暗殺技術を身に付け、ひとりの兵士として育てられていた。

後にレジスタンス発足後、当然の如く従事する事となり今は家を離れている。暗殺の仕事をお願いしている事は部隊長を含む僅かな人員しか知らない事だ。友人や知人にそれを隠して汚れ仕事を続けている事を既に割り切っている一方で後ろめたさを持っており、時折学友を羨ましがれに見つめている事がある。彼女は他の同い年の少女たちのような感情を失っている訳ではないからだ。